

持続可能な作物の高位安定生産の展開

～ 個々の収量upで瑞穂をup ～

十勝農業改良普及センター十勝北部支所 地域第一係

1 活動対象及び概要

音更町瑞穂地域 : 9戸(畑専5戸、畑野3戸、畑馬1戸)
1戸あたり経営面積: 45.9ha(町平均38.0ha)
経営形態 : 畑作物を基幹に野菜を組み合わせた経営
経営の特徴 : 秋まき小麦と豆類の作付比率が高い(小麦32.6%、豆類34.5%)

2 背景・ねらい

秋まき小麦

縞萎縮病の発生が多くH30年より全ほ場で「ゆめちから」に品種を切り替えたが、収量の年次間差が大きく収益が不安定

作物の高位安定生産

農業者から「この地域の土壌は作土層が浅く下層は粘土がきついため作物の収量が上がらない」との声があった。聞き取りの結果、既に暗渠施工、心土破碎、堆肥施用が行われている状況
→土壌断面調査を実施し、さらなる改善方策を探る

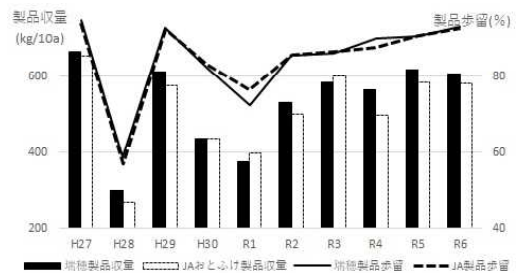


図1 ゆめちからの収量・製品歩留の推移

3 活動の経過

秋まき小麦(ゆめちから)の安定生産に向けた栽培技術の確立



現地研修会の開催



展示ほの設置



温暖化を考慮したは種提案

作物の高位安定生産に向けた取り組み



土壌断面調査の実施



前作の違いによる収量比較



各作物での試験実施

4 活動の成果

秋まき小麦の安定生産

施肥体系改善農家：実績 3 戸（目標 4 戸）

農業者の反応は…



R5 年秋が暖かくて
繁茂しすぎたから減肥したよ

▶ 継続的な呼びかけによる変化

試験ほ場の若手農業者は



言われた試験区を作ってきたけど
こんな試験ならどうなるかな

▶ 積極的に提案する姿も

は種体系改善農家：実績 3 戸（目標 5 戸）

気温変化を可視化し温暖化を再確認



やっぱり最近暖かいんだ

農業者からは

先輩農業者に相談して
適正量にしたよ

越冬前積算気温を見て
は種日を遅らせたんだ

▶ 技術定着の兆しが見られる

過剰は種の農業者も

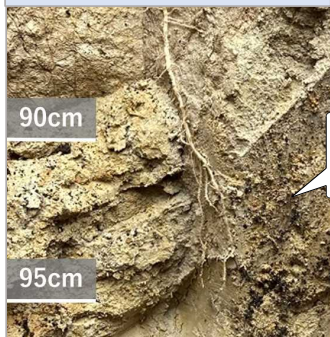
心配で多めにしたけど
提案量にすればよかった

今後の技術定着が
見込まれる

作物の高位安定生産

土壌物理性改善農家：実績 5 戸

土壌断面（9月調査）



（目標 7 戸）

100cm近くまで
根張りを確認

ここまで根が深く
入っているとは

しかし
後作収量の違いは
判然とせず



干ばつ対策のために
有機物導入を推進したい！

JA担当者

▶ 今後は場副産物導入効果も検討

てん菜の施肥量見直し

土壌診断に基づいた施肥量提案

▶ 減肥しても収量変わらず

適正量よりまだ多いから
これより減肥しても大丈夫そう



ブロッコリー暑熱対策の検討

女性農業者から相談を受け、検討開始

▶ 定植後の降雨により、結果は判然とせず

今年は成功しなかったけど
来年もやってみよう！



日々の巡回等で信頼関係が深まっている

5 今後の対応

秋まき小麦の安定生産に向けた栽培技術の確立

- ・ 実証ほを用いたは種量の適正化、穂数確保に向けた施肥管理の呼びかけ
- ・ 窒素吸収量を考慮した追肥量と追肥時期の検討
- ・ 町内農業者に対する越冬前積算気温の増加を考慮したは種量の提案および見直しの周知

作物の高位安定生産に向けた取り組み

- ・ 土壌断面調査の実施および後作物の収量調査
- ・ 加工用スイートコーン栽培による土壌物理性改善の情報共有および作付け提案
- ・ ほ場副産物を用いた肥料コスト削減および輪作への導入の検討